一般講演 17
白内障手術 1
Cataract surgery 1

2024 年 11 月 14 日（木） 8:50-10:10
第 14 会場 ｜ ザ・プリンス京都宝ヶ池 1F ロイヤルルーム

座長：松島 博之（獨協医大）

木-講演 17-3
多施設における有水晶体眼内レンズ術後眼に対する白内障手術成績の検討
Cataract surgery outcomes for post-phakic intraocular lens surgery eyes

小島 隆司[1]、鳥居 秀成[2]、柴 琢也[3]、森 洋斉[4]、後藤 聡[5,6]、長谷川 優実[7]、神谷 和孝[8]、永田 万由美[9]、松島 博之[9]、宮田 和典[4]

1:名古屋アイクリニック、2:慶應大、3:六本木柴眼科、4:宮田眼科病院、5:東京医療センター、6:大阪大、7:筑波大、8:北里大、9:獨協医大

【目的】多施設研究として有水晶体眼内レンズ眼 (pIOL）の白内障手術成績を評価すること
【対象と方法】018 年 1 月~ 2023 年 9 月 30 日まで、4 研究施設で有水晶体眼内レンズ挿入眼に対して白内障手術を 1 期的もしくは 2 期的に施行し術後 3 ヶ月以上経過観察が可能であった患者を対象とした。症例を後房型（ICL, I 群）群と虹彩支持型（Artisan/Artiflex, A 群）とに分け、術前検査値、術後結果、合併症を比較した。
【結果】I 群が 51 眼（平均年齢 48.2 ± 8.6 歳）、A 群が 14 眼（平均年齢 53.5 ± 9.5 歳）であった。I 群及び A 群の術前の平均 K 値は 43.42 ± 1.46D, 44.33 ± 1.36D、眼軸長は 28.41 ± 1.66mm, 27.62 ± 2.89mm で 2 群間に有意差は認めなかった（p>0.05)。術前内皮細胞密度は I 群 2576 ± 255/mm2, A 群 1926 ± 865/mm2 で A 群が有意に小さかった (p=0.03)。pIOL 手術から白内障手術までの期間は I 群、A 群それぞれ 68.0 ± 39.4, 145.6 ± 46.4 ヶ月で、有意に I 群の方が短かった (p<0.0001)。SRK/T 及び Barrett Universal II 式の予測屈折誤差は I 群で、0.19 ± 0.55D、-0.04 ± 0.48D で、A 群で 0.16 ± 0.39D、0.17 ± 0.29D でともに 2 群間に有意差は認めなかった（p>0.05)。術後合併症は、I 群で 1 眼、度数ずれのため IOL 交換を手術 2 週後に施行した。
【結論】pIOL 術後眼の白内障手術は安全で予測屈折精度が高い手術であることが示された。Artisan/Artiflex は術前から角膜内皮細胞密度が低いことに注意するべきである。
【利益相反公表基準】該当有
【 IC 】取得有 【倫理審査】承認有

▲ TOP